

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域での安心した、その人らしい生活支援をするための事業所理念を策定している。また、年度の初めに、事業所、利用者の現状や課題を振り返り、事業所全体、各ユニットの年度目標をたて、各ユニット事務所の目的のつく処に掲示している。目標達成に向けて取り組み、年度の終わりには振り返りと、次年度へ向けての取り組みについて検討する機会をつくっている。		
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	カンファレンス、申し送り、利用者との関わりの場面で、理念を念頭において振り返りや、ケアの内容について考え話あうようにしている。職員は理念に近づけるよう、自分自身・仲間に対し客観視して取り組めるよう努力している。		
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族には、契約時に説明すると共に、面会時や手紙などで日頃の関わりについてや、ケアプラン説明する際に理念をもとに伝える機会を作っている。また、地域の方には、事業所の建設時に説明し、運営推進会議や地域の集まりなどの機会に事業所の取り組みを伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時は近隣の方と挨拶をかわしたり、話をしたりしている。畑の作物を差し入れしてくれたり、町内の方が作った折り紙や絵葉書を届けに来てくれている方もいる。ホーム近くにある床屋に散髪をしに行き、顔馴染みになっており利用者の理解を得ている。		地域、事業所のお互いの行事に参加し交流する機会が増え、協力し合える関係は少しずつ築けてきているが、まだ、近隣の方との関わりが少ない。事業所の理解や緊急時や災害時に協力をして頂けるよう、また気軽に遊びに来ていただいたり、相談にのれる関係を築けるよう運営推進会議や行事での交流を通して呼びかけていきたい。地域向けの広報誌も作成しているが来年度に向けて回数を増やしていきたい。
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入している。運営推進会議などで、町内会の活動や行事などをきき、地域の盆踊りやお祭り、災害訓練などに参加している。また、町内の資源ごみ回収や、不審者・変質者から児童を守るための「防犯協力店」として協力している。		
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	人材育成の貢献のため、介護学生やリーダー研修の実習の受け入れを積極的に行っている。また、運営推進会議にて介護保険制度の改正についてや、高齢者虐待について、インフルエンザ予防についてなど話す機会をつくっている。		今後も、様々なテーマで事業所での実践をいかした勉強会を開催すると共に、町内の方に、どんなテーマでの勉強会をしてほしか、何か地域に貢献できる事はないかを話し合い、取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>成年後見制度、地域福祉権利擁護事業の理解に向けて今年度は外部の研修に出る機会が多く、職員全員の周知までは至らなかった。今年度の外部研修で学んだ事を活かし、来年度は内部研修の年間予定の中に盛り込み、事業所全体で学ぶ機会をつくる。対応が必要な利用者がある場合は、利用者にすすめる機会をつくっていくと共に、職員に説明し話し合いながら支援していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>今年度は内部・外部共に研修する機会をつくってきたが、自分たちの関わりやケアの方法が拘束や虐待にあたらぬかを振り返る事や、家族、職員のストレスの軽減に向けて、定期的に話し合い、勉強会の中で検討していく事が必要である。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>契約時は時間をかけて、重要事項説明書や重度化した場合の対応、個人情報に関する同意などを説明し、理解・同意を得ている。契約時、事業所のできる事・出来ない事を明確に説明した上で、利用者の状態の変化により退居になる場合は、本人・家族と相談しながら話をすすめている。また、契約内容が改訂になる場合は家族に、その理由を示し、説明会や場合によっては個人的に説明する機会をもち同意を得ている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	関わりの中での利用者の言葉や、思いを言い表せない利用者であっても、表情や態度から思いをくみ取るよう努力している。利用者からの思いに対し、職員間で話し合い、改善に取り組んだり、思いが叶うよう日々のケアの中で活かすようにしている。また、外部への相談機関として、重要事項説明書に図式にて説明している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族の面会時、また毎月、担当職員が利用者のホームでの生活の様子、往診や受診の結果などを書いた手紙や写真を添えて伝えている。急を要する事に対しては、その都度、家族に電話連絡し報告・相談を行っている。遠方の家族には返信用の封筒を同封し、ケアプランの確認・サインをして頂き送ってもらうようにしている。金銭については、毎月、領収書とお小遣い帳のコピーを送り、残金の報告をしている。職員の異動については面会時、都度伝えるとともに、広報誌にて職員の顔写真つけ、報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の面会時や毎月送付しているお手紙、運営推進会議、また玄関先にご意見箱を設置するなどにて、気軽に意見・不満・苦情などを言ってもらえるような場面作りをしている。重要事項説明書にて、苦情に対する解決方法を図式にて説明すると共に、外部の相談機会がある事を、契約時に説明している。家族からの要望・苦情に対し、苦情処理報告書を記載し、職員全員で課題を検討し改善に努め、今後も、積極的に要望・苦情を話してもらえるようにしている。年に1回の外部評価の家族アンケートも家族の思いをきける良い機会である。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員と話す機会をつくり、たあいもない会話の中から要望や意見を聴き出し、その思いを出来る限り反映させるよう努力はしている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者、家族の状況、要望に合わせ、職員間で話し合いの場をもち、利用者が安全で、その人らしく生活ができるように勤務時間の調整をしている。行事の時は職員を手厚くしたり、利用者の急な体調の変化や職員の急な休み対応できるよう、管理者はシフトからはずれ、臨機応変に対応できるようにしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係が利用者、家族が安心でき、信頼できる関係につながると考えており、各ユニットの職員を固定している。また、異動や離職でやむを得ない場合も引き継ぎの期間をとるようにし、その交代の時期にも配慮している。新しい職員が入った時は利用者、家族に伝えるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人・家族が何に困っているのか、どんな支援を必要としているのか、本人の状況を見極め、本人・家族の思いをくみ取り、出来る事は、すぐ対応出来るようにしている。相談の状況によっては、必要に応じて他の事業所のケアマネージャーや相談員と連絡を取り、他のサービス機関につなげたり、地域資源を活用するなどの対応をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人・家族が安心して利用できるよう、事業所を見学していただいたり、職員が自宅を訪問したり、顔見知りの関係が築けるよう配慮しながら利用にうつるようしている。やむを得ず、すぐ利用になった場合は、家族に協力してもらい面会を増やしてもらう事で安心してもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人がどのような生活をしたいのかをくみ取り、一緒に生活する場として職員は本人の事を理解する事に努め、また、利用者に職員が受け入れてもらえるよう努めている。家族に近い存在として、一緒に生活をしていく中で、共に楽しみや悲しみなど喜怒哀楽を共にし支え合える関係作りに努めている。利用者を敬い、教えてもらう場面を多くつくり、声がけや場面づくりに配慮している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時やお手紙、電話連絡などで、本人の生活の様子(身体面・精神面など)を伝え、その状況に対し職員の思いを伝えている。本人の支援に対し、家族の思いや意向を聴き一緒に本人を支えていける様、家族にも伝え協力していただいている。面会があった時は、家族とゆっくり過ごせるよう雰囲気に配慮し、家族と一緒に出かけられるような外出の企画をして取り組んでいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族に本人の様子を知ってもらうため、日頃の様子をお手紙や電話で連絡するようにしている。本人・家族の関係性を見極めながら、外出・面会をすすめて、よりよい関係が継続していけるよう努めている。面会時は職員が調整役となり、本人と家族が楽しい時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みのある場所・人の事を忘れてしまっている方も多いが、思い出せるような声かけを行っている。本人が昔から交流のあった知人や友人に気軽に遊びに来て頂けるよう家族を通し声をかけている。実際に面会にきたり、電話がかかってくる事もある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者個々の性格などを把握した上で、食事の時間や活動の場面で会話を多く持つよう職員が中心となり利用者同士の関係作りをしている。個々の、その日の体調や気分配慮しつつ、利用者同士が支え合い、他者への不満がつかないで生活できるよう職員が調整役となっている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者が他の施設・病院に移っても、お見舞いに行ったり、家族と連絡をとり経過を聴いている。また、利用者が亡くなった場合でも、気軽に遊びにきてほしい事や、いつでも相談にのることを伝え継続的な関わりができるようにしている。退居した家族から身内の方を入居させたいとの相談にのることもある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、関わりから利用者の思いをくみ取り、その人の希望・意向の把握に努め、出来る限り実現に向けて家族にも協力してもらいながら取り組んでいる。意志疎通が困難な方は過去の生活など、家族や本人の事をよく知っている方達から情報を得て職員のミーティングなどで話し合いをしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、自宅訪問をし、本人・家族、または他事業所の関係者から情報を得るようにしている。事前に、生活歴や生活習慣などを記入できるシートを家族にお願いして記載してもらい、入居しても以前と変わらない生活が出来よう対応している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	おおまかな時間は決まっているが、その人の生活リズムを把握し、その人のペースで生活できるよう支援している。また、日々変化のある心身状態に合わせ、できる事、できなくなってきた事を見極め、できる事が継続できるよう支援し、その日その日でその人らしく生活が送れるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族に日頃の様子を伝え、思いや要望を聴き、本人の思いと共に、その人らしく生活できるよう介護計画を作成している。アセスメントを行い、定期的カンファレンスを開催する事で課題になる事、その対応策やケアの振り返りを職員全員で話し合いをしている。その都度、家族にケアの内容や結果、ケアプランを確認をして頂き、了解をいただいている。家族、協力医療機関も含め、本人にとってより良いケアが出来るよう、それぞれの気持ちや考えを介護計画の作成に活かしている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>一か月ごとにカンファレンスを行い、実施した事の評価から職員全員で継続していく点、改善していくべき点を話し合い、介護計画の見直しを行っている。期間途中で見直しとなった場合は、その都度、本人・家族の要望を取り入れ、協力医療機関とも相談しつつ、本人の状況に合わせ新たな介護計画を作成している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別のファイルに、生活の様子や本人の言動、ケアの実践と結果、バイタルや排泄状況など記録している。また、利用者の事以外に、家族からの要望や職員と家族のやり取りを記録に残すようにし、勤務前に記録を確認したり、申し送りや連絡ノートを活用し情報共有に努めている。ケアプランを意識して記録が書けるよう、ケアプランを傍に置きながら、記録書きをしている。記録から、個々の経過や変化に合わせ職員間で意見交換しながら、ケアプランの見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>家族の宿泊、外出の付き添いや、外出場所までの送迎、通院介助など、本人も家族も安心して過ごせるよう職員の人数を増やしたり、勤務時間をずらすなど、本人・家族の要望に応じ臨機応変に対応している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>町内会長さんや民生委員の方との意見交換の場面でボランティアへの協力を呼びかけを行っている。警察、消防に災害・緊急時に対応して頂けるよう避難訓練、緊急時の対応について指導・アドバイスを頂いている。近隣にある床屋を利用し、利用者の状況に合わせ、送迎を行っている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>本人・家族からの要望がないため行ってない。</p>		<p>本人・家族の要望や必要に応じて、ケアマネジャーやサービス事業所と連携をとりながら他のサービスを活用する機会をつくっていく。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>定期的に行われる運営推進会議に出席して頂き、情報交換を行っている。地域の方・家族、または職員の勉強会などで、高齢者虐待や成年後見制度についての講話をしてもらい、家族・町内の方と共に本人をサポートできるよう地域包括支援センターとの関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医療機関の他に、本人・家族の希望にそって、以前から利用していた、かかりつけ医の受診ができるよう支援している。専門機関の受診が必要になった場合でも、その都度、本人・家族に相談し、受診・治療を行っている。基本的には職員同行の受診としているが利用者の状態によっては家族の付き添いを依頼し一緒に通院をしている。適切な治療が出来るよう、往診の医師から専門機関に情報を提供してもらい、医療機関との関係を築いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	開設当初からお世話になっている認知症の専門医があり、毎日の生活の中で、利用者の変化や気になる事がみられる時は受診をし、認知症の経過を診てもらったり、関わり方や内服の調整のアドバイスをもらっている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に2回(月・金)、看護師の訪問があり、その都度、利用者の様子や健康状態について相談し、アドバイスをもらい、日々の体調管理に役立てている。訪問以外でも、利用者の様子や体調に変化がある時は連絡がとれる体制を確保している。看護師との連絡ノートを作成し、利用者の体調や健康管理についてやり取りしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際は本人の関わり方、日々の生活の様子などに関する情報を医療機関に提供している。医療機関と情報交換を行い、本人の状況を見極めながら家族・職員・往診の医師と早期退院に向けて話し合い出来るだけ早く退院できるようアプローチしている。本人のストレス軽減や入院によるダメージを考え、入院時は頻りに面会に行き、食事がすすまな時は食事介助に行くなどして対応している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応にかかる指針に関する同意書を作成し、入居時、家族に説明し同意を得ている。本人の状況に合わせて、その都度、本人・家族・協力医療機関・職員で話し合い指針を基に、取り組める準備は出来ている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人・家族の思いを踏まえ、本人の状況を家族・協力医療機関と情報を共有するようにしている。事業所で出来る事・出来ない事を見極め、本人・家族・職員・協力医療機関を話し合いを重ね、その人にとって安心して、納得して終末期を迎えられるよう、随時意志を確認しながら取り組んでいる。協力医療機関とも連携された協力体制がとられておりチームで支援していけるような準備は出来ている。本人の急変時の状況を想定し、搬送先の病院の確保や対応について話し合うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅や他の事業所に移り住む時は、本人・家族に関わるケア関係者で話す機会を持ち、情報交換を行っている。また、日々の生活の様子や支援の内容、注意が必要なこと等を伝え、今までの生活と変わらず安心して生活が出来るよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	利用者の誇りや、プライバシーを損ねる事がないよう、利用者の表情や場面・状況に合わせ、相手を敬う気持ちを忘れず言葉かけや個々の対応を心かけている。カンファレンス時には、利用者との関わりについて振り返る機会を持ち、また職員間でも利用者との関わりで気になる事はお互いに注意するよう努めている。個人名を他者の記録に書かない、個人名が記載してある物はシュレッダーをかけて破棄している。また、身近な家族以外に利用者のプライバシーに関する事は話さないよう徹底している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者一人一人、物事の理解度が異なるが、その人に合わせ、その人がわかる言葉や意思表示ができる方法で決めてもらっている。外出に出かけ、食べたい物をメニューから選んでもらったり、本人が好きそうな物を数個に絞り選びやすいようにするなど、日常の中で自分で決めたり、選べたりする機会をつくるようにし、出来るだけ職員が一方的に決める事がよう心がけている。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな一日の生活の流れは決まっているが、時間でする事は決まっておらず、その日の利用者の体調、気持ち、やりたい事を汲み取り、その人のペースに合わせて生活してもらえるようにしている。本人がしたい事(買い物・散歩・散髪・外出など)は出来る限り対応し、フロアの状況や体調、天候などで都合がつかない時は、いつなら行けるかを伝え納得してもらっている。その人のペースに合わせてつつ、単調な毎日にならないよう外出・レク活動などを行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	爪・髪の毛・髭は伸びてないか、汚れた服を着ていないか、外出時の服装等を常に気にかけて不十分な所は、さりげなく声をかけ、手伝うようにしている。個々の生活習慣を把握し、化粧や整容を支援している。更衣時はどんな服が着たいか聴いたり、天候・季節に合わせ一緒に選ぶ機会をつくったり、また、マニキュアを塗ってもらうなど出来る限り自分でしてもらい、その方にとってオシャレが楽しみになるよう支援している。またネイルアートや顔パック体験など現代のオシャレや美容体験なども取り入れ、楽しんでもらえるような支援もしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人の出来る事を見極めながら、買い物・調理・味付け・盛り付け・配膳を職員と一緒にいき食事時は同じテーブルで職員も食事を摂っている。出来る限り自力で食事が出来るよう、食事の提供の仕方、盛り付け、食器の位置などを工夫している。食事中は音楽を流したり、楽しく食事が出来るよう、食材の事や季節の事など職員が話題を提供しながら楽しい雰囲気の中で食事が出来るよう心がけている。利用者の苦手な食材が少しでも食べれるよう調理を工夫し利用者一人一人が食事が楽しめるよう支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>本人、家族から、その人の嗜好品の情報を得て、おやつや飲み物に好みを取り入れたり、好きな時間を楽しむよう本人の希望を聞きながら日常的に楽しめるよう支援している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個々の利用者の排泄チェックを行い排泄パターンを把握し、利用者の状態や表情、気分を見極めながら、トイレの声かけ、誘導を行いながら、出来る限りトイレでの排泄ができるようにしている。また、日常的に使用する事が無いよう、パットを使い分けたり、オムツを外す時間をつくっている。トイレでの排泄が継続できるよう、利用者の状態に合わせて、都度、職員間で話し合いながら、その方にとって、気持ちよく排泄できる方法を探り対応している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>本人の希望や、その日の状況に応じた柔軟な対応をしているが、意思疎通が困難な方は、ある程度、職員が決めて基本的に2日おきに入浴していただいている。その日の体調や表情などをみながら入浴の声かけを行い、入浴を拒まれた時は、無理に促さず、本人の希望にそって、時間や日にちの変更したり、本人にゆっくり関わり、タイミングをみて入浴をすすめている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>本人の身体状態や生活習慣、日中の様子などに合わせ、本人が安心できる居間・フロアソファや落ち着いた居室などで休息を促している。また、利用者個々の睡眠パターンを把握し、一日の生活リズムができるよう、日中と休息のバランスを考え過ぎていただいている。寝付けないう時は、温かい飲み物を促したり、話をする等を行っている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>個々の利用者の生活歴や好きな事などの情報を得て、家事仕事全般や趣味活動を促している。家事仕事は、利用者の状態に合わせて個々に役割をもってもらったり、昔、農家をしていた利用者には畑作りや作物の育て方を教えてもらう場面をつくったりしている。本人自ら意欲的にしてくれた活動やお願いできそうな仕事を頼むなど、得意な事で力を発揮出来るような事を見つけながら支援している。活動後は必ずお礼の言葉を言い、次の活動につながるようにしている。散歩、体操、歌を歌う事など日常的に行い、楽しみの一つになっている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>自分で持っている心配と事務所での管理を希望する方は、本人、家族の希望に応じ対応している。支払いが可能の方は、自分で支払っていただくよう、その人の状態に合わせて、財布やお金を渡したり、本人と一緒に確認しながら支払いするなどを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	年間で季節行事の予定を組み、フロア全員や、少人数での外出をしている。また、利用者の受診後に夕食をしてくる等、その時の利用者の希望や気分に応じて、散歩や近隣のお店、行きつけの床屋、夕食に出かけている。暖かく天気のいい日は、気分転換や季節を感じてもらえるよう外出の声掛けをおこなっている。歩行が困難であったり、意志疎通が困難な方でも車椅子や車両を利用して、ドライブや散歩、夕食、花を見に行く等の外出を行っている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者さんからの希望に応じて、大きなクリスマスツリーを見に行ったり、花が綺麗に咲いている公園へ家族にも声をかけ一緒に外出をしたりと、家族にも協力をして頂きながら企画している。日々の会話の中から行きたい場所を探り、また、家族からの情報をもとに、利用者や家族から思いが出された時は、実現に向けて職員間で話し合い支援につなげている。本人・家族と相談し、計画を立て事前に職員の勤務調整、緊急時に備えての準備などをしながら行っている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	気軽に電話を使用して頂けるよう、本人からの希望があった時や、家族・知人から手紙、荷物が届いたときは電話をするよう声をかけている。字の書ける方には手紙を書いてもらっているが、困難な方には電話をし頂いている。関係が打ち切られる事がないように、気軽に電話、手紙のやり取りが出来るよう声をかけ、関係が継続されるよう配慮している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室以外にも、フロアに椅子やテーブルを設置して気兼ねなく過ごしていただけるようにしている。気軽に訪問して頂けるよう、訪問時間は決めておらず、仕事帰りや家族の都合の良い時間帯に訪問できるようにしている。職員は常に笑顔で心がけ、気持ちよく利用者と家族が過ごせるよう雰囲気づくりに配慮し、状況をみながら、さりげなく利用者と家族の間を取り持つようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部の研修に参加したり、内部の勉強会では事前に職員全員にアンケート調査を行い、身身体拘束が起きる背景や職員の心理状態を探り、そのアンケートや事例をもとに検討する機会ももち取り組んでいる。また、カンファレンスや日々の業務の中で、職員が気づいた事を話し合い、自分たちのケアが拘束となっていないか振り返り、身体拘束の予防に努めている。		今後も勉強会やカンファレンスで身体拘束が起こる背景を探りつつ、事例をもとに、日々のケアが身体拘束になっていないかの振り返りや、拘束をしないためにどのようなケアを行うべきかを考え、職員が身体拘束に対する意識をもちながら日々のケアに取り組んでいけるようにする。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関・居室は鍵はかけず自由に入出入り出来るようにしている。利用者が落ち着かなくなる時間帯や気分の状態を把握し、職員間で気にかけて連携をとりながら、鍵をかけなくても利用者が安全で外出出来るよう、さりげない声かけや見守り・付き添いなどを行っている。入所時にSOSネットワークの利用について家族より承諾を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は居間や食堂で記録書きをし、また他の業務の際も、さりげなく利用者の様子を感じ気かけながら、利用者の安全に心がけている。夜間は、定時で巡回を行い、利用者が起きてきた時でも、すぐ対応できるような場所にいるようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	すべてを取り除くのではなく、生活に必要な物は危険のないよう十分に注意し、自由に使用できるよう配慮している。利用者の状況を見極めながら、注意の必要な物について使用後は、事務所や目の届かない所に片づけるなどし取り組んでいる。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	生活の中で起きうる事故や、個々の利用者に起きうる状態を想定して、事故が起きないように職員で話し合い未然に防ぐよう努めている。万が一事故が起きた場合や、事故に至らなかったが危険があった場合は、事故報告書を作成し、事故の振り返りと今後の対策を検討し、その日の勤務者とミニカンファレンスを行ない職員全員で再発防止に取り組んでいる。事故発生後は必ず家族への報告を行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て救急救命の講習会を年に1回開催し職員全員が対応できるよう行っている。また、利用者の急変・事故が発生した時にその対応について経験した事がない職員に、その場に一緒に付いて教えるようにしたり、事務所に急変・事故後の対応についての参考資料や、緊急時のマニュアル、職員連絡網を作成し、実際の場で活かしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を年に2回、日中と夜間の火災を想定して実施し、指導を受けている。近隣の事業所と協力して行い、回覧板にて避難訓練の実施と協力の依頼を行い、地域の方の協力のもと行っている。また、地震が起きた事を想定し、町内で実施した防災訓練に利用者職員が参加している。もしもの時に備え、定期的に消火器や災害時の設備点検を行っている。川が近いことから、水害に備え、消防や警察との関係を築いている。		今後も、もしもの時に備えて、定期的に訓練をしていくと共に、地域住民の協力を得るためにも、積極的な交流と呼び掛けを行っていく。また、地域主催の防災訓練に参加した事で、備蓄についても学ぶ良い機会となったため、災害時の対応として、食料・水・オムツなどの備蓄の準備に向けて取り組んでいきたい。災害時マニュアルが出来ていないため、災害時マニュアルの早期作成を行う。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の出来る事を活かすためには、職員も十分配慮はするがリスクを伴う事を家族に説明している。ケアの取り組みがわかるよう、その都度、対応について家族に説明し、理解をいただいている。その取り組みも、その人にとって苦痛にならないよう、職員間で話し合いを行い、快適に過ごして頂けるように努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日、血圧・脈・体温の測定を行い、記録の残し変動をみたり、利用者の食欲や顔色、排泄物、歩行状態など、普段の様子と違う事は記録に残し、体調の変化の早期発見に努め、往診の医師に相談したり、必要時には受診を行っている。気づいた事は管理職へ報告し、職員間の情報共有を徹底し、対応している。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々の生活ファイルに処方箋を綴り、個々の内服薬の内容・副作用・服薬量を確認し、理解に努めている。特に、内服薬が変更になった場合には、状態の把握を注意深く行い、協力医療機関に相談しながら調整を行っている。内服薬は、その方の状態に合わせて内服介助を行い、経過を記録に残し、変化を見ている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排泄チェック表にて個々の排便の状況を把握し、腹部マッサージを行ったり、乳製品や食物繊維の多い食材や飲み物を取り入れ、個々の利用者に合わせて水分量を調整し促している。業務の中で便秘の原因や及ぼす影響、予防・対応について、職員に伝え、日頃から、飲食物や運動(散歩・体操・フロア歩行など)を意識して取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせて食後に歯磨きやうがいを促し、見守りや介助を行っている。就寝前には必ず歯磨きを行い口腔内の状態を観察し、義歯の洗浄をし洗浄剤に浸けている。協力医療機関の歯科医に年に一度、無料の口腔内の検診を行っており、口腔内を清潔に保つアドバイスを頂いている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日本通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者全員の水分量は職員が把握できるように水分チェックしている。、水分量が一日本通じて適量が確保できるように、本人の好みやタイミングをみて促している。本人の好きな嗜好品や習慣を取り入れたたり、利用者の状態に合わせて食べる量や大きさに配慮しながら支援している。利用者に合わせて、不足している栄養素が含んでいる食材を促すようにしている。管理栄養士にカロリーや栄養のバランスを考えた献立を作成して頂いている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>職員・利用者はインフルエンザの予防接種をしている。インフルエンザを持ちこまないために業務にはいる前にうがい、手洗いをを行い外来者にもすすめている。玄関にマスク・消毒液を設置し、面会時には使用して頂くよう、その旨を玄関に掲示している。塩素系漂白剤を薄めた物を用意してトイレや食堂に置き、使用後はすぐに消毒出来るように用意している。また、職員の理解を深めるために参考資料を準備し、感染症の予防や感染後の対応についての知識を持って取り組んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板や包丁などの調理器具は毎晩漂泊液に浸けて消毒・殺菌している。布巾は使用後は漂泊液に浸けて清潔を保つようにしている。食材は配送されて来るため、ただちに冷蔵庫・冷凍庫に移し替え、食材は消費期限を守り、無駄にならないように使い切るようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関は来客者が入りやすいように、プランターに花を植えて季節感を感じられる工夫をしている。広報紙や季節の飾りなどを置き、明るい雰囲気作りをしている。玄関にベンチやテーブルを置いて利用者や家族がゆっくり過ごせるスペースを設けている。また、その日の日勤者がわかるように職員の写真を掲示している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>室内には馴染みのある物や懐かしい物(日めくりカレンダー・振り子時計など)、季節を感じてもらえるような装飾品を置いている。また、心地よい音楽をかけるなど、利用者が落ち着いて過ごせるようにし、不快に感じないように配慮している。五感を刺激するよう生活の中での匂い、音、食べ物などを工夫して取り組んでいる。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>中玄関や2階のテラスにベンチを設置している。また、居間やフロアーの廊下に椅子や長ソファなど休憩出来る場所があり、利用者は思い思いの場所で気ままに一人で過ごしたり、景色を眺めたり、他利用者と会話を楽しまれるなど、くつろぎの空間をつくっている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人・ご家族と相談しながら以前から使い慣れている家具や装飾品をそのまま持ってきて頂き、馴染みのある家具(タンス・ベッド・鏡台・仏壇)や生活道具、写真を飾ったりしている。また、利用者の好みに合わせて絨毯やカーテンを用意してもらい、本人が生活しやすく心地良く暮らせる過ごせる空間づくりをしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>こまめに換気を行っており、トイレは換気扇と消臭剤で気になる臭いがこもらないようにしている。フロアや各居室の温度計と湿度計を設置し、室温・湿度を気にかけて調整を行っている。冬期間は乾燥するため、加湿器をフロアに設置し、湿度を保つようにしている。居室の乾燥を防ぐため、濡れタオルをかけておくなどの工夫をしている。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>広いフロアや季節に関係なく活用できる中玄関やテラスを利用しての散歩や活動を行っている。また、身体状況に合わせて活用できるトイレの設置やスポットライトの活用、居室・共有スペースの戸の色を変えるなどの工夫をしている。階段の途中にベンチを設けたり、台所・手すり・浴室・電気のスイッチ等は利用者が生活するうえで使いやすい高さになっており、安全で安心して暮らせる環境になっている。全体的にゆとりのある生活空間となっている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>職員間で話し合いの場を持ち、混乱や失敗の要因を探り、本人の状態に合わせて様々な工夫をしながら、その人の持っている力が活かせるよう環境整備を行っている。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外回りには花壇や畑を作って、水やりや見て楽しめるようにしている。中玄関やテラスにベンチを置いて季節に関係なく景色を楽しむ事が出来たり、活動や食事をするなど、くつろぎのスペースや気分転換の場として活用している。また、建物の玄関前には広いスペースがあり、涼んだり日向ぼっこが出来るようにしている。</p>		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

協力医療機関による、医師・看護師の定期的な往診があり、密に情報を共有できる環境にある。利用者の状態に合わせてや緊急時など、24時間体制で連絡がとれる状態にあり、医療機関との連携がとれている事で、利用者の体調管理や異常の早期発見につなげ、安心して生活していただける環境にある。日々の関わりの中で気になる事は、口頭でのやり取りや、記録に残す事で、職員間で情報を共有し、経過をみながら、いち早く変化に気づき、協力医療機関に相談し、早期対応につなげている。また、その人の持っている力を最大限に活かせるよう、職員で話合う場を多くもち、情報交換をし、様々なアイデアを出し合いながら実践している。グループホームで生活する意味を職員全員が理解し、トイレでの排泄や、歩く事、口から食事・水分を摂る事など、当たり前の中で、出来る事が継続していけるよう、利用者個々の状態を把握しながら取り組んでいる。広い、ゆとりのある居住スペースを利用した活動やリハビリを行い、時には一人になる場所として活用しながら、穏やかに、自分の時間を過ごしていただけるよう支援している。隣接している、同一法人内のグループホームと勉強会や避難訓練を行うなど協力体制で、職員のスキルアップに向けて取り組んでいる。